



あんらくがわばし

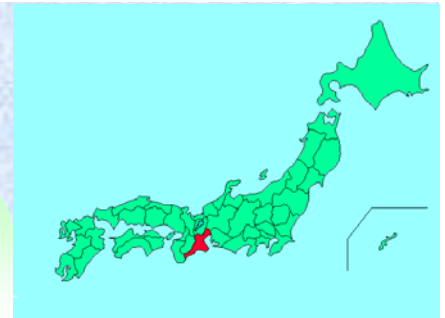
安楽川橋 (仮称) (その2)

本工事は新名神高速道路の亀山西 JCT (仮称) に位置し、鈴鹿国定公園を含む豊かな自然に囲まれた環境下での橋梁上下部工事です。

安楽川橋は、供用中の池山高架橋上下線間に位置する延長 945.5m の橋梁で、7 径間と 3 径間の連続波形鋼板ウェブ橋の 2 連の橋梁で構成されています。上部構造には斜めウェブを有するリップ付き床版構造を採用しています。

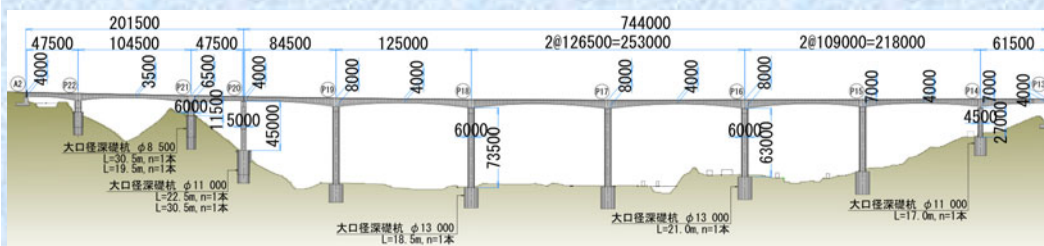
7 径間部は標準幅員 22.65m の 2 室構造。施工は Rap-Con 工法で行っています。

3 径間部は最大幅員 37.3m の 4 室箱桁構造で、橋梁全区間において幅員変化を有しています。施工は 5 主トラスを有する超大型架設作業車で行っています。

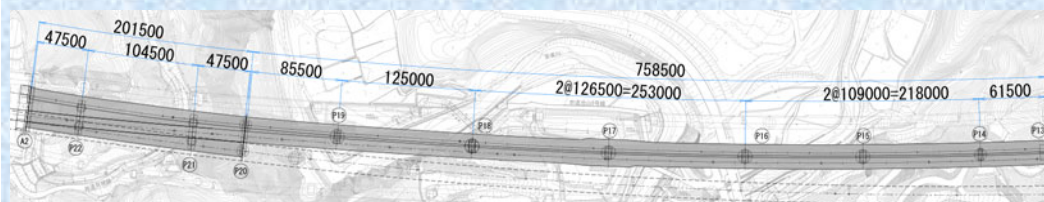


◆一般図

側面図

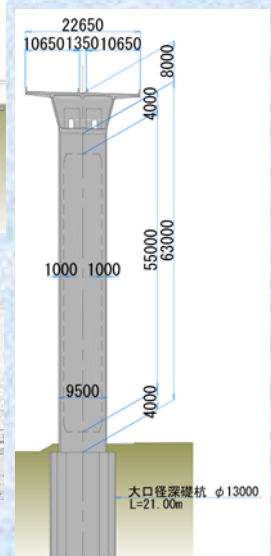


平面図

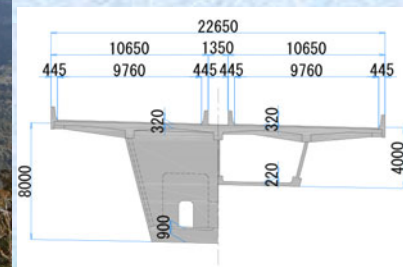


最近全景

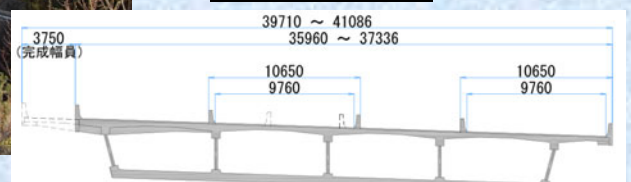
断面図



7 径間部断面図



3 径間部断面図



最近全景

◆構造・施工概要

1) 7 径間部の概要

7 径間部は、「Rap-Con工法」で施工を行っています。主桁重量の軽量化のため、下床版幅を絞った斜めウェブ構造を採用しており、Rap-Con工法では、珍しい斜めウェブ上に架設作業車が配置されています。

Rap-Con架設作業車の後方には、ジブクレーンを配置して波形鋼板の架設を行っています。

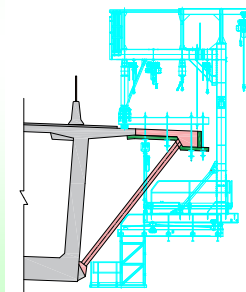
2) 3 径間部の概要

3 径間部は、幅員最大37.3mの4室構造です。P20～A2の全区間で幅員が変化しています。

広幅員のため、5主トラスを有する超大型架設作業車で施工しています。各所の施工条件により、トラス間隔が拡幅・移動する「拡幅型架設作業車」、架設作業車直下の建築限界を確保するため、型枠梁と作業台が一体となった「超低床架設作業車」など特殊な架設作業車を使用しています。

3) 既設橋拡幅の概要（右図参照）

安楽川橋の終点側に土工部を挟んで隣接する錐ヶ瀧橋では、本線を供用しながら既設橋の床版拡幅工事を行っています。拡幅量は0.3～4.2mで、施工延長は上下線をあわせて905mです。車線規制の制約による狭い施工余裕幅に対応するために、専用の高欄撤去台車と床版施工台車を用いて施工を行っています。



錐ヶ瀧橋断面図



架設作業車組立（7 径間）



張出し架設状況（7 径間）



波形鋼板ウェブ架設状況（7 径間）



張出し架設状況（3 径間）



波形鋼板ウェブ架設状況（3 径間）



超低床架設作業車（3 径間）



拡幅工事全景（錐ヶ瀧橋）



壁高欄撤去作業車（錐ヶ瀧橋）



床版施工作業車（錐ヶ瀧橋）



三井住友建設

発行：三井住友建設（株）土木本部 土木設計部
連絡先：東京都中央区佃2丁目1番6号 TEL03-4582-3063
URL：http://www.smcon.co.jp

現場：三重県亀山市安城山町 1827-1
TEL0595-85-8156